

# 出雲駅伝

# 目標圏外の4位も

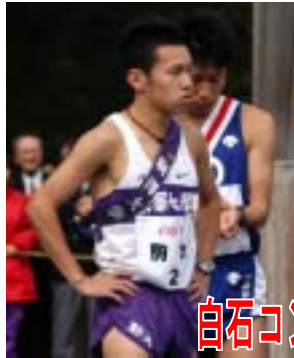
# 王者の強さアピール

スピードランナーを多数揃え、初優勝を飾った東海大のアンカー伊達。全日本は不出場だが箱根では一番のライバルとなりそうだ



東海大、大会新で初V

1区に抜擢された藤山は6位の好位置でスターターの大役を担った



白石コンビで好スタート

3位に順位を上げた2区高井。1年生の全日本以来の駅伝で復活をアピール



2年連続でアンカーを務めた佐藤。最後は日体大との3位争いに敗れ4位に後退した

千八区間で快走した村上(左)から主将の齊藤(右)へ中盤でついでトップを奪った



中盤で首位奪取

地元出身の平野が駅伝デビューとは思えない積極的な走りで首位をキープ



第17回出雲全日本大学選抜駅伝が10月10日、鳥根県出雲大社～出雲ドームの6区間44kmで行われた。箱根駅伝4連覇中の駒大も出雲では7年間優勝から遠ざかっている。

1区には今季トラックで自己ベストを連発し、好調な藤山が起用された。「プレッシャーも少し感じていたけれど、スタート地点に立つと思ったより大丈夫だった」と初の出雲を落ち着いて走り、6位で役目を終えた。続く2区は藤山と同じく白石高校出身の高井。強い向かい風に苦しみながらも順位を3つ上げた。

レース中盤、流れを引き寄せたのは3区村上。エース区間でアグレッシブな走りを見せる。さらに4区齊藤も「ごちゃごちゃ考えないで、少しでも差をつけたかった」と残り1kmで一気にスパート。ここで初め

て駒大がトップで中継所を通過した。

5区は地元出身の平野。駅伝デビューとは思えない力強い積極的な走りを見せる。最後こそ皆倉(東海大)に並ばれたものの、首位を死守してアンカーへ。今年もまた勝負の行方は佐藤に託された。

スピード駅伝と言われ展開が激しく出雲。過去に何度も逆転劇があった。前回はサイモン(日大)に20秒差をひっくり返された。今年こそはと強い気持ちで臨むが、伊達(東海大)のハイペースにリズムを崩す。後続の上野(中大)、北村(日体大)にもかわされ4位でゴールした。

しかしこの結果にも大八木監督は「5区までは思い通り」と駒大らしい駅伝ができたことに納得の様子。佐藤も「申し訳ないと口で言ってもしょうがない。走りで借りを返したい」と切り替えてい



レース後、アンカー佐藤に声をかける大八木監督。今季への手応えを感じ笑顔を見せた

る。選手一人ひとりが自分の課題を理解し、次を見据える。この意識の高さが駅伝王者の証。全日本、箱根では駒大の武器である選手層の厚さを生かし、栄冠を勝ち取ってくれるだろう。(速藤 万里)

## 第17回出雲全日本大学選抜駅伝競走結果

順位	チーム名	1区(8.0km)	2区(5.8km)	3区(8.5km)	4区(6.5km)	5区(5.0km)	6区(10.2km)	総合(44.0km)
1位	東海大	杉本 (4)	佐藤 (1)	丸山 (2)	宮本 (2)	皆倉 (2)	伊達 (1)	2時間08分42秒
2位	中大	奥田 (8)	小林 (5)	池永 (5)	宮本 (3)	増田 (3)	上野 (2)	09分15秒
3位	日体大	岩崎 (12)	梅枝 (7)	保科 (7)	熊本 (5)	鶴留 (4)	北村 (3)	09分33秒
4位	駒大	藤山 (6)	高井 (3)	村上 (3)	齊藤 (1)	平野 (1)	佐藤 (4)	09分35秒

は個人順位、カッコは総合順位、網掛けは区間賞、は大会新記録